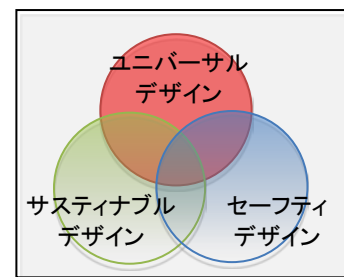


わたしたちの活動

山形大学の佐藤慎也先生から、まちづくりに大切な視点を教えてもらいました。それは、ユニバーサル・デザイン（人・文化から考える視点）、サスティナブル・デザイン（自然・環境から考える視点）、そして、震災を教訓にした、セーフティ・デザイン（防災・安全から考える視点）です。3つの視点で、新しく作られるまちと今のまちを見学しました。歴史や自然、文化、そこに暮らす人たちに接することにより、未来のまちには何を残し、何を新しくすればよいかを考えるようになりました。一人一人がまちづくりの具体的なアイデアを考え、模型に表現していきました。エリアは、七郷小学校を中心とした、今のまちと新しいまちです。たくさんの方々のご協力により、模型は完成しました。ふるさとの七郷とそこに暮らす人たちを誇りに思います。模型に表現したまちの実現は、これからのわたしたちの生き方にかかっているんだ、そう感じました。



メッセージ

1組、2組子ども市長から



みなさん、新しくなった七郷のまちをぜひ見に来てください。日本、そして世界を平和な社会にしていきましょう。

3組、4組子ども市長から



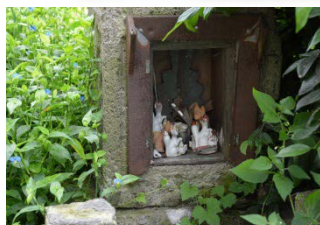
すてきな七郷のまちを実現させるのはわたしたち。本当の幸せとは何かを考え、みんなで話し合っていきましょう。

〔活動協力〕

仙台市荒井南土地区画整理組合、仙台市荒井東土地区画整理組合、公益財団法人日本ユニセフ協会、山形大学地域教育文化学部、株式会社竹中工務店

未来の七郷まちづくり

日本ユニセフ協会「子どもにやさしい復興計画」支援事業



(インフォメーション)

わたしたちの七郷地区は、北側には住宅地が広がり、南側には緑や田んぼ、畑が残っている地域です。2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。学区の一部には津波が押し寄せ、七郷小学校も大規模な避難所となりました。余震が続き、すべてのライフラインが止まった状況の中、わたしたちは助け合い、そして、たくさんの方々の支援によって生き抜きました。

震災から4年、学校の目の前の田んぼは新しい住宅地になり、まもなく、地下鉄も開業します。復興と開発が進み、大きく変わろうとしている七郷地区。わたしたちは、「未来の七郷はこうなってほしい」という思いを持ち、10年後の七郷のまちを想像して模型に表現しました。模型には、環境や文化、防災の視点から考えたアイデア、そして、七郷小学校6年生157人の夢と希望がつまっています。

2015年3月
仙台市立七郷小学校6年

1・2組のまち

歴史と自然、安全と便利がフュージョンした
あたたかなまち七郷



自然博物館



野菜レストラン



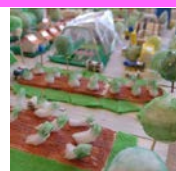
デジタル情報板



地下鉄荒井駅



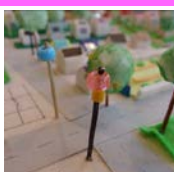
希望の木



七郷伝統の畑



リサイクルショップ



災害に役立つ街灯



用水路の水力発電



歴史と未来の七郷小学校



シート型ソーラーパネル



避難コミュニティセンター



七郷タワー



福祉避難所



七郷の湯



回る防災スピーカー

3・4組のまち

人と自然がつながり 幸せあふれるまち七郷



子ども安心預かりセンター



七郷防災公園



雨水利用のビニールハウス



避難所体育館



七郷ライスハウス

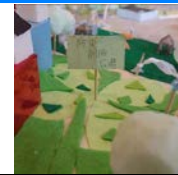


光る点字ブロック



地下鉄荻井駅

七郷小学校



防災幸せ広場



教育交流広場



フラワーロード



震災復興記念館



カフェと図書館広場



タッチパネル案内板



イグネという屋敷林



太陽光+風力発電



キャンプ場



自家発電観覧車